

第2回西谷地区学校づくり検討委員会  
会議概要

開催日時	令和6年(2024年)1月16日(火) 15:40~17:10
開催場所	西谷小学校2階 多目的室
出席者	【委員】14名 【教育委員会事務局】5名
次第・議事	1 開会 2 議題 西谷地区の現状について/これまでの取組状況について/西谷の子どもたちの「強み」と「弱み」について 3 その他 4 閉会
会議の主な結果	
会議録(要旨)	
事務局	【1 開会】 (資料確認・議事録の取り扱いについて) (部長挨拶) (委員長挨拶)
事務局	【2 議題】 議題(1)の説明
委員長	今の説明について、意見や質問はあるか。
副委員長	世帯数について、小学校と中学校それぞれ表の真ん中に世帯数を書いてあるが、どういう意味なのか。西谷全体の世帯数ということか。
事務局	西谷地区の世帯数になる。
副委員長	では、中学校の上の不明部分は小学校の数値をそのまま入れたらいいのか。
事務局	そうなる。
委員	4ページ目の世帯数は3ページ目と同じ数字を書いたらいいということか。
事務局	同じ数字で問題ない。
委員	転校してきた子や転出の数も反映されているのか。
事務局	(ア)は各年度、転出入が反映された5月1日時点の数字になっている。(イ)は見込みの数字なので転出入は反映されていない。

副委員長	2025年の完全複式化について、小学校の普通学級は最大3クラス、プラス特別支援学級が編成されるなら知的障害と情緒障害の2クラスを足して、最大5学級が最低確保できると捉えていいのか。
事務局	学校として普通学級が3クラス、特別支援学級2クラスで認められるのか、運営出来ていくのかという話か。
副委員長	それもあるし、特別支援学級の場合、該当するお子さんがいれば、知的障害の子どもにも情緒障害の子どもにも、確実に2クラス設定されるものなのか。担任が5名就くものなのか。
委員	知的1人、自閉情緒1人となったとき、2人で勉強する場面も必要となると、どちらかの学級が無くなって、どちらかに入るということもある。だから必ず2学級になるとは限らない。小規模人数でない学校でも、1人1学級でないところもある。また、入ってくる子が1人で特別支援学級相当だった場合、1人の子が2つの学級に在籍できないため、おそらくその子の属する学年の特別支援学級は作らずに、普通学級に属することになると思う。普通学級に特別支援のことも含めて指導することになるのではないか。
副委員長	その場合は、子どもの担任の先生が、複式学級の2学年の学びと特別支援的な学びの3つの役割を担う可能性もあるということか。
委員	そういうことになる。
委員長	続きまして議題の(2)について、事務局より説明をお願いします。
事務局	議題(2)の説明
委員長	特に小中一貫校や特認校についての説明をしてもらい、学習も進めていたところだが、これがベースになって今後この検討会議の中で大きな柱になるところではないかなと思っているので、その辺十分に理解をいただきながら、我々も意見を出し合って方向性を見つけ出していくということが大事ではないかなと思う。
副委員長	事務局に西谷地区で説明してもらっているが、多分どういう流れになっているのか知らない保護者が多いと思う。
委員	保護者は流れを把握していない。
委員	中山台小にも小中一貫の話が出ていると聞いているが、そのことを知らない中山台小校区の保護者は多い。

事務局	<p>中山台小の小中一貫の説明や情報発信については、学校統合したばかりということと、その際の反省を踏まえてから進めていきたいと考えているので、まだ広く情報発信はできていない。西谷では保護者向けの説明会を8月27日に実施しただけなので、またどこかでこの検討会の取組の情報発信をしていけたらと思っている。</p>
副委員長	<p>あと答申について、あくまで専門家の意見だと考えているが、中には決定事項だと思っている人もいる。</p>
事務局	<p>答申というのは、諮問機関に意見をくださいという風に行政側が投げかけて、もらった意見なので、1つの意見だという認識を持っている。その後、答申の考え方を踏襲していくが、その考え方をもち地域の方に意見を聞いて、それと一致すればそれでいいが、一致しなければ一致しなかった方向で、教育委員会の方に再度意見を集約して、教育委員会で最終的に方向性を決めるということになるので、この会議の方向性というのは非常に重要だと認識している。答申も重要な提言ではあるが、地域での検討結果が一番重要視されるべきだと考えている。</p>
委員	<p>検討委員会のメンバーに関しては西谷地区の小学校、中学校の在り方について考える機会もあると思うが、実際PTAでない幼稚園の保護者とかは全く知らない。ホームページに載せていても見に行かないから、委員会からプリントを配布するのがいいと思う。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。参考程度だが、中山台地域では学校統合を進めていく中で、進捗状況を地域の方や保護者に知ってもらうために、事務局でお便りを作っていた。毎回の会議後作る訳ではないが、議論が進んだなというところで定期的に作成して、保護者や地域の方に西谷地区の学校づくりの現状を共有できるような仕組みづくりが出来たらと思っているので、また改めて事務局から提案させていただこうと思う。</p>
副委員長	<p>事務局だけの働きではなくて私たちの問題。どう西谷でこのことに関心を高めて一緒に考えていく風土を作っていくかだと思う。</p>
事務局	<p>作成の際も教育委員会だけで作り上げるという訳ではなくて、委員長や副委員長に案を出したり、この会議にかけてもいいと思う。先ほどの意見も、あくまでも教育委員会から一方的に情報発信というよりかは、皆さんで考えた意見を基に情報発信していったらどうかということか。</p>
副委員長	<p>情報発信もそうだし、この検討委員会という場そのものがオープンで、皆が来てくれて関心を持ってくれるという方向に進めるのがいいと思う。</p>
委員	<p>そもそもこの場を知っている人がいるのか。</p>

委員	<p>現状の PTA さんや、学校、幼稚園に通われている方に、どれだけ知ってもらえるかが難しいところで、関心ない人は全然関心がない。終わってから結果をどうこう言う人もいると思う。我々がやっていることを分かってもらうための1つとして、まち協で学校を考える部会を作ったが、これすら知らない人もいるので、分かってもらうための場が必要だと思う。</p>
委員	<p>8月27日もすごく広めたが、結局来たのは数える程度だった。</p>
委員	<p>自分事だと思っていない。</p>
委員	<p>こちらがそういう場を設けても人が集まらない。PTCA の総会などの必然的に人が集まるところで説明した方がいいと思うが、そういう場での説明は難しいのか。</p>
事務局	<p>そういった場に参加して説明するのは問題ない。</p>
委員長	<p>理解した時には自分の意見と違う結果になっていたということが多いのではないかという意見もでた。今委員としてそれぞれの組織の代表で出ているので、そこでの呼びかけも大事だと思う。そして最初に言ったとおり、小中一貫校、特認校のどちらにしても、理解が出来ていない状態で議論してもなかなか進まないのので、専門の方からの説明を十分にさせていただいて、理解を深めていかなければならない。説明をする機会を作る、こちら側からもアプローチをしていくということが大事だと皆さんの意見を聞いて思った。</p>
副委員長	<p>もし可能だったら、働いている保護者もいるのでこの検討委員会を平日の夕方以降開催で、PTCA のメールやふれあいメールで流して、どなたでも来席してくださいという形がいいと思う。あと、来られた方の意見を聞く機会があった方がいいかなと思う。会議が終わった後に皆さんの意見を30分程度一緒に対話するみたいな機会を設ければ、聞くだけではなくて関わっていただく形にもなる。</p>
事務局	<p>終わってから意見を聞くという場合、あらかじめ知らせておかないと、それだったら行っていたのにということがある。会議中に参加者も意見を言える会議に設定することもできる。あとは、意に沿わないからということで、特定の会議に来て、特定の意見を言うという場合もあって、それがその地域の全ての意見のような扱いをしなければならない状況になることもあるので、そこは慎重にしていかなければならない。また、先ほどからお知らせの方法ということだが、教育委員会では今までこうした地域に入って学校の在り方を検討する会議というのはいくつかやってきたが、やっぱり地域の関心を寄せるというのは大きな課題。1回目、2回目の会議から、会議の様子を周知していこうとするとなかなか難しい。というのは、今参加されている方も今後どんな議論が展開されていくのか模索されている中、それを広報しても読まれ</p>

	<p>た方は「この程度か」となってしまう。最初なので仕方がないことだが、読まれている方は活字だけを見て判断されるので、その段階であまり活氣的に地域に周知するのはあまり期待できない。もう少し会議が進捗して成熟していくと、また様子は変わってくると思う。保護者説明会や地域説明会というのは、地道に開催し問題意識を持たれるような議論をしていけば参加者が徐々に増えていくので、そこは根気よくしていくことではないかなと思う。</p>
委員	<p>参観日は保護者の方が結構集まるので、その後とかにだったら集まる可能性は高いと思う。なかなか仕事終わりは参加者が少ないのでは。</p>
委員長	<p>では、続きまして議題の（３）について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>議題（３）の説明</p>
委員	<p>非認知能力とはなにか？</p>
委員	<p>テストの点数のような簡単に評価できるものが認知能力で、思いやりや責任感などの数字だけで測れないものが非認知能力。資料にも書いてあるとおり、学力は確かに課題だが、そういうマイナスのところだけではなくて、思いやりなどのすでに備わっているプラスの部分をさらに伸ばしていかないといけないと思う。</p>
委員	<p>西谷の子は、小さい集団の中ではあるけど、その中でどういう風に対応したらいいかということを学んでいて、非認知能力は皆備わっていると思う。</p>
副委員長	<p>非認知能力は AI が教えられないところなので、今教育関係の世界ではすごく注目されている分野。ここを持っているというのはすごい強み。作ろうと思ってもなかなか作れないことだし、今までの地域や学校、親御さんの支えがあってこそそのものだと思う。</p>
委員	<p>西谷の子は結構感性豊かだと思う。それは多分、幼稚園へ保育に行かせてもらって異年齢の交流があるなど、色々な経験をさせてもらっているから育まれていると思う。今学校アンケートを取っていて、正直学力は課題だと思うが、心の部分の豊かさは市内の他の学校と比べても負けない力を皆持っていると思う。保護者も卒業したら終わりという感覚の人が多いかもしれないが、そうではなく、地域で見守られて育ててきた子どもがいるから、次はその子供たちが大人になっても、次の世代を支えるという、そういう風に皆でもっていかないといけないと感じている。学校アンケートを集約して思ったのが、子どもが感じているのと、保護者が感じているのとは、かなり乖離している。家で子どもと色々な会話をさせていただいて、もっと学校や教育に興味を持ってもらえたら嬉しい。そうすれば次につながるかと。</p>

委員	<p>教育委員会の方に質問で、私たちは南部の学校を知らないで、今の多くの学校で見られることや、これは西谷ならではだと感じられる部分を教えてほしい。</p>
委員	<p>17年間担任していた経験から比べて言うと、車の送迎はなかなか他の学校ではあまり見ない風景かなど。例えば中山五月台でも遠いところから歩いて来ている子もいた。それと提出物のことで言うと、取りに帰らせたりとかはこの学校ではできない。通学距離等の問題で他の街の学校と同じような指導をやろうと思ってもできない部分がある。あとは、結局交通の便に繋がるが、色々な体験で外に行かそうと思った時に、交通費の負担があって頻繁にというのが難しい。行くのが難しかったら外から来てもらえばいいと思って、来てもらうような機会を作るようにしているが、たまには外の世界も見せてあげたい。それと学力に関して、例えば宿題が締め切りまでに出てこないときに、あんまり言うと保護者がかばってしまう。ある意味切磋琢磨されていない部分が子どもたちにもあるかなと思う。</p>
事務局	<p>顕著に違いが出ているのはやっぱり学校規模だと思う。学校という仕組みの中では、単に先生が前で勉強を教えるということだけではなくて、人と人とのかかわりの中で学んでいくことも多くある。クラス替えて色々なタイプの子とも出会い、中学校では部活動で色々な先輩と出会う。それから子ども同士だけではなくて教師との関係。非常に重要なのは、そこで子どもが親や近所の人、親戚以外の大人と接する機会が学校しかなく、大人との接し方というのも学校で学ぶ。そこに多くの大人がいるのかどうかというのも、子どもの学びのなかで大きな影響が出てくる。大きな学校ではそうした機会が豊富にあり、小さな学校ではなかなか難しいなと思う。一方、小さな学校のメリットは、どの学年の先生も全校生徒の名前を知っていたり、その背景である家庭もよく知っていたりする中で、その子どもにあった接し方ができる。メリットを最大限生かして、デメリットを少しでも解消するような取組をしているのが西谷小中学校や南部の小規模校だと思う。あと自然環境は、通学路が非常に遠いというのが過酷だとは思いますが、考え方を少し変えれば、体が強くなる、たくましくなっていくのではないかなと思う。宝塚市は南部地域でも通学距離が比較的遠く、尼崎や大阪は10分以内くらいで校区の端から学校に行けるような地域設定になっている。そういうところから比べると特に西谷は、たくましさが出てくる特色があるのかなと感じている。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。いろいろ比較してみたら新たな認識が出てくるのではないかなと思う。</p>
委員	<p>私がおこに来て一番大きく感じているのは、地域全体として子どもたちのことを気にかけてくれる人が多いということ。色々な人が中学生とか小学生に声をかけてくれるし、子どもたちも地域の大人の名前を知っている。そういう関わりは街の中ではなかなか持ってないと思う。だからこの会がそれをさらに広げていけるような場になっていけば、今の在校生の保護者も我が事のように向いてくれるのかなと思う。</p>

委員	<p>弱みとして、保護者の金銭的な負担が大きい。例えば修学旅行は南部の学校だとバスで行くが、西谷からバスで行くと韓国に行けるくらいの費用がかかってしまうため、今年は新幹線で行った。電車の方がたくさん経験できるし、子ども料金で安くなるという、発想を変えてお金を少し抑えて行けるような方法を考えている。ただ、今年高学年が行く京都は、電車で行くと回れるところが少なくなるから、バスを使わざるを得ないということになって、その辺のご負担を保護者におかけすることになっている。あとは調理実習をしたときに、必要なものを近場で手に入れるのが難しいなど、南部の子が普通にできていることが西谷では環境的に難しい。その辺の限界を迎えているのが残念。</p>
委員	<p>議題（１）の人口の推移だが、今後このままでは人口が増えることはないと思う。このままずっと減って1人になったとき、その子が西谷の学校に通いたいとなれば通えるのか。人数が少なくなれば統合になるのか、いくら答申が出たとしても親の意向を聞いて、ここで育てたいと思ったらいけるのかということをお聞きしたい。</p>
事務局	<p>1人になればというお話であれば、学校を維持していくというのは非常に難しいと思う。では、数人いたらどうなるのかというと、その場合は仮に文部科学省や兵庫県から、学校を残してもいいという方針があったとしても、その子どもの学習環境という視点で見たときに、その子が本来小学校あるいは中学校で学ぶべき色々なことが、その小集団で実現できるのかという検討が必要になってくるのかもしれない。この検討会で、どこまで見据えて検討するかということも含めて、少人数の中でどういう教育効果を上げていくための仕組みを作ればいいのかということを議論することで、大体の人数のターゲットも見えてくると思う。</p>
委員	<p>人数が減ったときに親がどう考えないといけないのか、人数を増やす方法を少しでも考えないといけないのかなとも思ったのでお聞きした。ありがとうございます。</p>
副委員長	<p>この強みと弱みをこの場で是非出させていただきたいと言ったのは自分で、こういう話を地域と保護者、学校と一緒に出来るというのはかなり画期的なこと。今後は学校ができること、地域ができること、保護者ができること、それぞれの役割を考えながら、こういう学校にしていこうという議論が出来たらと思ってお願いした。もう1点は未来の学校部会として、昨年度皆さんの声を聞くような場を作って進めてきた。そのなかで、年齢層関係なく学校を残したいと皆がほとんど思っていて、あとは子どもを増やしてほしいという、この2点の意見があった。なので、この検討委員会の方向性としては、その2つは中心において話していくのがいいと思っている。</p>
委員長	<p>今日の3つの議題の中で、特に最後の強みと弱みについて、地域を挙げて考えていけないといけない問題。皆さんの意見を集約して次回に繋げていけるように事前の会議もして、次の会議のテーマを決めていきたいと思う。今日予定していた議題につい</p>

	<p>てはここで終了させていただく。</p>
副委員長	<p>次回の日程はどうするのか。</p>
事務局	<p>次回の会議については、前回もお話ありましたとおり3月頃を予定している。3月4日（月）はどうか。</p>
委員長	<p>では3月4日で、時間は今回と同じ15時30分でも可能か。委員の皆さんは15時30分からでも大丈夫か。</p> <p>～問題なし～</p> <p>あとは傍聴の方にどういう呼びかけをするかということで。</p>
事務局	<p>前もって早めにお知らせすれば、来られる方はいるかと思う。</p>
委員長	<p>では事前に会議の啓発をするということで、4日の15時30分から1時間30分とさせてもらう。</p>